

ブロックを使用するにあたっての気を付けたいこと

ブロックを使用することで、作図の効率は格段に向上しますが、何点か気を付けたいことがあります。ここでは、以下の3つの場合について、その原因と対処法を説明します。

1. 変更を加えたブロックを挿入したのに変更が反映されていない。
2. ブロックを分解したら文字の内容が変わってしまった
3. ブロック編集にて属性定義を変更したのに図面に反映されない。

1. 変更を加えたブロックを挿入したのに変更が反映されていない。

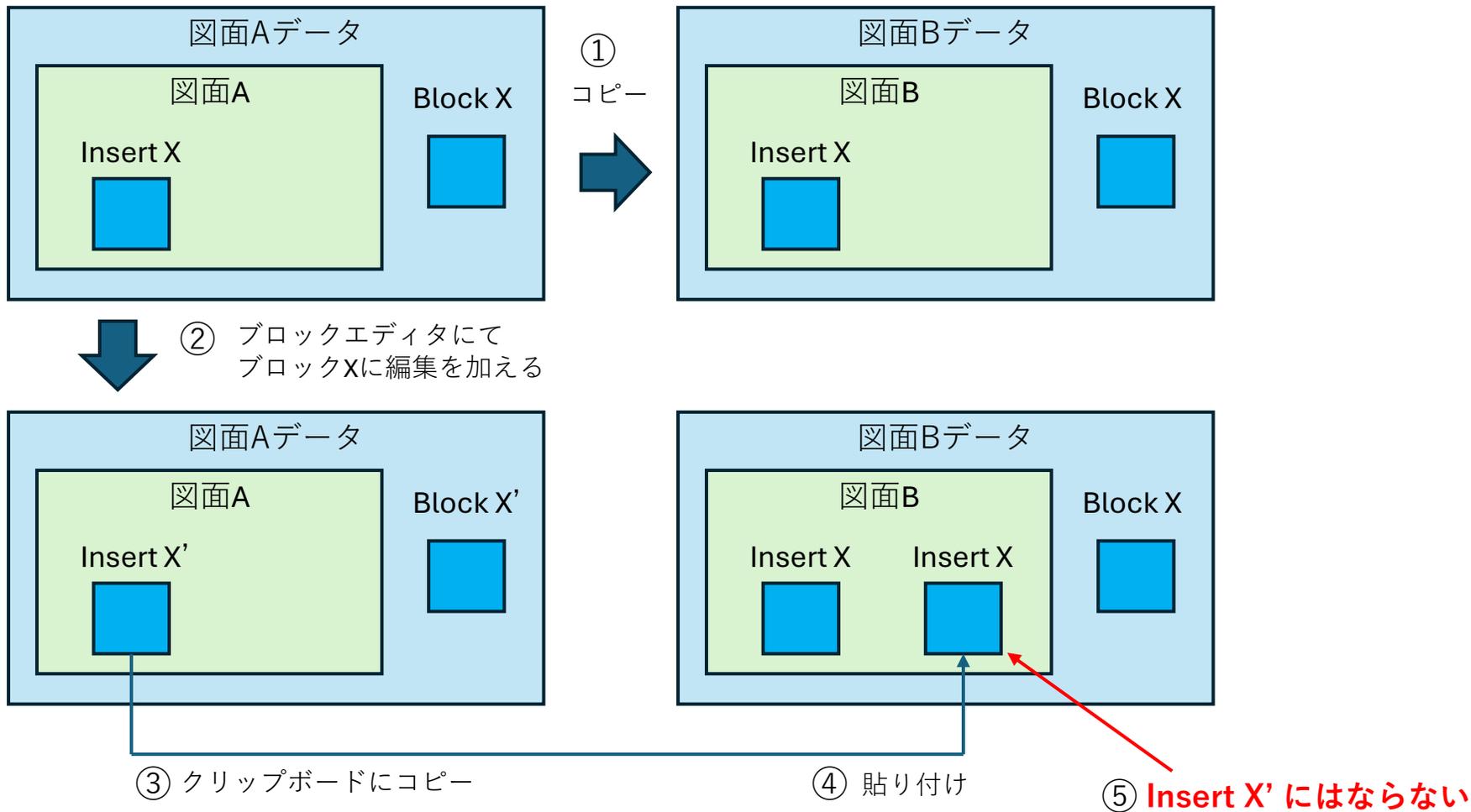
別の図面からクリップボードにコピーして、ツールパレットから、または、デザインセンターからなどなど ブロック挿入を行った時に、期待していたブロックではないことがあります。

例えば、図面AにてブロックXを作成したとします。そして、その図面Aを流用して図面Bを作成したとします。この時、図面BにてブロックXに変更を加えたので（これをブロックX'と呼ぶことにします。）、このブロックXの変更を図面Aにも反映しようとして、図面B上のブロック参照X'をクリップボードにコピーして図面Aに貼り付けます。ところが、これでは図面A上のブロック参照Xは、ブロックX'に変更されることがありません。

次ページの図を参照ください。図面Aの図上の Insert X（ブロック参照 X）も それをコピーして作成した図面Bの Insert X（ブロック参照 X）も それぞれの図面データ内にある Block X（ブロック定義 X）を基にして作図されます。

図面A上でブロック編集画面を開いて Block X（ブロック定義 X）に変更を加えると 図上の Insert X（ブロック参照 X）はその変更内容に従って再作図されて Insert X' になりますが ブロックの名称が変化するわけではありません。このため、この Insert X' をクリップボードにコピーして、図面Bに貼り付けても、図面B内のデータには 同一のブロック名称を持つ Block X（ブロック定義 X）が存在しているため Insert X' と同様の図形にはならないのです。（ただし、ブロック定義情報ではない、Insert X としての情報（画層・色・線種・回転角度・尺度 など）は、ブロック定義で固定されていなければ、貼り付け時に引き継がれます。）

このため、AutoCAD には「再定義」という概念があり、図面データ内の Block（ブロック定義）そのものを書き換えるということができるようになっています。この「再定義」の方法については [こちらをご覧ください](#)。



☒ 変更を加えたブロックを挿入したのに変更が反映されていない

2. ブロック参照を分解したら文字の内容が変わってしまった

ブロック定義に属性定義が含まれているブロック参照を分解すると、属性定義部分の属性値が失われて、属性名が描画された状態で分解されてしまいます。(動画: [属性を持つブロックを分解](#))

これを、属性値を引き継いだまま分解したい場合には、[Express Tools]リボン - [Blocks]パネル - [Explode Attributes]ボタンのBURST コマンドを使用します。(動画: [属性を持つブロックをBURST](#))

ただし、属性定義に可視性を持たせて非表示にしている場合であっても、表示された状態にて分解されてしまうようです。

(動画: [属性に可視性を持たせたブロックをBURST](#))

属性定義、可視性などのブロックの機能については、別途、詳細を説明するようにします。

3. ブロック編集にて属性定義を変更したのに図面に反映されない。

ブロック編集画面にて、前述の属性定義に関する変更を Block (ブロック定義) に加えたとき、エディタを閉じてもすぐにその変更は Insert (ブロック参照) に反映されません。属性定義の編集を Insert (ブロック参照) に反映させるには、「属性同期 (ATTSYNC)」コマンドを使用します。(動画: [属性同期](#))

個人的によく行う操作なのですが、ボタンがわかりにくいところにあるのが少し不満です。

以上、「ブロックを使用にするにあたっての気を付けたいこと」でしたが、「属性」「可視性」「アクション」などブロックの持つ機能には様々な種類がありその応用は多岐にわたります。これにつきましては、別の章にて詳しく説明したいと思っています。